

『ジャーナリストから見た看護労働の実態』

主催 財団法人東京保健会 病体生理研究所

毎年10万人以上の看護職が辞めている。その背後には、絶対的な看護師不足がある。40年以上前の「ニッパチ闘争」の時代に逆戻りするような過酷な夜勤による「職場流産」の悲劇が起こっているのだ。

看護職は働く女性の20人に1人という一般にも身近な存在だが、看護職の3人に1人が切迫流産を経験。母性保護が見過ごされている状況だ。病棟では、「正職員である以上、夜勤のできない看護師はいらない」と言われ、外来はパート化。そして医療の現場には専門職以外の非正規雇用が増えている。

疲れ切った看護師に「良い看護」はできないばかりか、患者の命を危険にさらすことにつながる。

超長時間・過密労働で失われる「やりがい」。そして、病院の過半数を占める看護師の問題に光が当たらなければチーム医療を担うメディカル全体の問題も解決しない。今こそ、現場の声を挙げなければ、看護は崩壊し、医療は完全に崩壊してしまう。

日時	2012年2月4日(土) 午後2時30分～午後4時40分
会場	プラザ・フォレスト(全林野会館)6F「604号」会議室
講師	小林 美希(こばやし みき)先生
対象	看護師・ほか各医療職(事務系を含みます)
定員	80名(申込は先着順・定員で締め切ります。あらかじめ御了解ください)
参加費	無 料

申し込み方法

- 1、下記の申込書にもれなく御記入のうえ、FAXまたは郵送でお申し込み下さい。
(記入もれなど不備がある場合には、受講票が送付できなくなります。必ず全て御記入ください)
- 2、申込者あて開催日前までに受講票をFAXで送付します。当日必ずお持ち下さい。
- 3、締め切り後の申込者へは速やかに「締切済」通知をFAXで送付します。悪しからず御了解ください。

※ ※ ※ 下記の各項すべてにご記入のうえお申し込みください ※ ※ ※

2012年2月4日(土)『ジャーナリストから見た看護労働の実態』研修会受講申込書

勤務施設名	職 種	申込者氏名(フリガナも)
施設住所 〒(-)		
TEL () FAX ()		

申し込み先 〒173-0025 東京都板橋区熊野町47-11

(財)東京保健会 病体生理研究所 医療技術者研修企画係

問い合わせ用TEL 03(3956)4120 申し込み用FAX 03(3956)4102

講 師

こばやし みき

小林 美希 先生

労働経済ジャーナリスト(シャオリン出版〔株〕代表取締役)

略 歴
現 職等

1975年 茨城県生まれ
神戸大学法学部卒
株式会社、毎日新聞社エコノミスト編集部を経て、2007年からフリーのジャーナリスト

著書論文等

『ルポ 職場流産～雇用崩壊後の妊娠・出産・育児』(岩波書店、2011年)

『看護崩壊』(アスキー新書、2011年)

『ルポ“正社員”の若者たち～就職氷河期世代を追う』(岩波書店、2008年)

『ルポ 正社員になりたい～娘、息子の悲惨な職場』(影書房、2007年)
〔*2007年度日本労働ペンクラブ賞受賞〕

会場案内図

プラザ・フォレスト(全林野会館)6F「604号」会議室

(〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目28番7号)

〔電話〕 03(3945)6871(代表)

交通機関

地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」から徒歩7分 地下鉄三田線「千石駅」(A4出口)から徒歩12分
地下鉄有楽町線「護国寺駅」(3番出口)から徒歩12分
JR山手線「大塚駅」(南口)から徒歩20分

プラザ・フォレスト会館のご案内図



注記：本財団は個人情報保護法を遵守し、申込書に記載頂いた情報は、本研修会に係る受付・運営のみに利用いたします。申込の内容に関する照会・修正等につきましては左記「医療技術者研修企画係」へ御連絡をお願い致します。